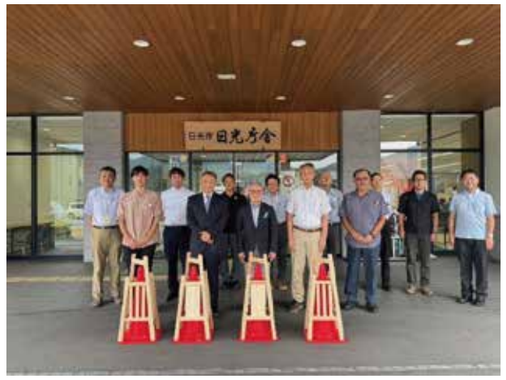
東町かわら版

第26号
令和８年２月27日
発行：日光東町まちづくり推進委員会

カラーコーンカバー贈呈式

令和7年8月に、カラーコーンカバー贈呈式を行いました。令和6年度に引き続き、日光木材業協同組合に協力していただき、カラーコーンカバーを寄贈していただきました。三ツ山委員長からは、「世界遺産の門前町にふさわしいものを寄贈いただきありがたい。」との挨拶をいただきました。

カラーコーンカバー受渡しの様子



カラーコーンカバー贈呈式記念撮影の様子
（日光行政センター正面入口前）

mekke日光郷土センター（御幸町）に4基、きもの つゞれ屋（御幸町）に3基設置しています。東町の景観に調和したデザインとなっていますので、ぜひ足を運んでいただき、近くでご覧ください。

景観まちづくり講演会

令和7年10月に、日光公民館にて、景観まちづくり講演会を開催しました。ぼんぼり光環境計画株式会社の角舘政英（かくだてまさひで）先生をお招きし、講演いただきました。「ひとを感じられるあかりを作ることが重要。大きな光で１面を照らすのではなく、小さなあかりで部分的に照らすことも重要。」といった光の観点から非常に貴重な講演をしていただきました。今回講演いただいたことを参考にし、東町のまちづくりに活かしていきたいと思います。今後もこのような講演会を開催していきたいと考えています。

景観まちづくり講演会の様子（日光公民館多目的室）

あらためて、“祭り（いのり）の町”とはなんだろう？！

WG座長　小池　秀明

「この町は的屋のような町になってしまったのか…」
秋の行楽シーズン、今年も賑わう日光の門前町。

正確なデータは分かりませんが、肌感覚としてはかつてに比べ明らかにまちなかを歩くお客様が増えているように感じます。これも街並み整備の一つの効果と言えるのかもしれません。新しいお店も増え、来晃客も増える。それ自体はとても喜ばしいことでしょう。

しかし、この賑わいを手放しで喜んでもよいのだろうか。冒頭の言葉は、よく日光を訪れているというお客様が、ある商店主の方にふとこぼした言葉だそうです。的屋さんで賑わう光景が悪いのではありません。ただ、日光の門前町が目指す街並みの光景は“祭り（いのり）の町”。世界遺産・日光の社寺へ続くこの門前町を、“祈り”の気持ちを込めて歩いてもらえるような町にしていこうじゃないか。これが、私たちの先輩たちが示したまちづくりの理念です。街並み整備が鉢石宿、いよいよ最終章に入った今、あらためてこの理念を思い返し、WGの活動も続けていければと思う今日この頃です。

日光東町への思い

日光東町まちづくり推進委員会
アドバイザー　阿久津　新平

私は終戦記念日から五か月後に聖地日光に生まれました。四回目の成人式を迎えました。私にとって心に残る東町の街並みの大きな変化は三回ありました。一回目は、小学２年生の頃に日光電車が開通したことです。新型の電車は明るい未来社会への夢を咲かせてくれました。二回目は、車社会の到来により道路は車で溢れ、そのために日光電車は廃線となってしまったことです。三回目は現在進行中の道路拡幅工事です。私は東日本大震災の年からアドバイザーとして参加させていただいています。道路の形状は徳川家康の社殿造営の頃の形状とほとんど同じです。地形に沿って旧市庁舎前でカーブしています。自然の造形に素直に対応した美しい街並みです。

今回の道路拡幅工事により街の景観はガラッと変わりました。まず日光連山の視界が広がり一段と美しい景観になりました。歩道が広くなり坂の街日光の歩行感覚が緩やかに優しくなった感じがします。一番の変化は街灯が低くなったことです。国道で規制されている最低の高さに抑えられました。ガラスボールの街灯が身近になり親近感を感じます。街灯が低くなったことで街灯間隔が狭くなり、坂の街の景観の美しさを醸し出しています。

今回の道路拡幅工事のコンセプト「祭り（いのり）の町」の素晴らしい表現だと感じています。街灯が点灯されると、明かりが街並みの家々の軒下の正面までも優しく照らします。この街灯の列は、二社一寺の境内の石灯篭の列に相通じるものを感じさせます。

これから道路拡幅工事は二社一寺に近い中鉢石、上鉢石町になります。狭隘な地域で今回の道路拡幅工事の正念場になります。素晴らしい街並みの完成を強く願っています。

今日の少子高齢化社会において、市民のみならず、旅行者にとっても思いやりのある、心優しい街づくりを続けてほしいと思います。新しくなった美しい街並みを末永く愛情をもって維持管理し手入れをして、この街並みを成長、発展させ続けていくことを願っています。

東町の街路灯（御幸町）

お問い合せ
発行者：日光東町まちづくり推進委員会
事務局：日光市　建設部　都市計画課　都市計画係　担当：青木・関
電話：0288-21-5102　FAX：0288-21-5176　メール：toshi-keikaku@city.nikko.lg.jp

明日へ繋ぐ　東町街並みの変遷

アーカイブ部会　福田　純夫

平成15年より始まった「東町街並整備事業」も20年が経過し、いよいよ世界遺産エリアに近い区域の整備事業が近づいてきました。計画当初に懸念されていた事業進捗によって空き地が増えるのではないかという考えが現実のものとなりました。駐車場の増加・貸店舗の増加といった形を変えた問題です。

東町の街並み整備事業のテーマは「祭りの町」（いのりのまち）、この意味は古来より日光に息づく八百万の神から二社一寺に続く日光の歴史・文化すべてに対して畏敬の念を未来に渡って息づかせるテーマだと考えています。

事業を進める上でワーキンググループも「まちづくり規範」を作成してきました。今後個人資産の問題、相続問題にかかる問題ではありますが、「駐車場問題」・「空き地問題」などに対しての提言ができればと個人では考えています。

ワーキンググループは現在三つの部会で検討を行っていますが来春には何らかの発表の機会が作れればと考えています。「アーカイブ部会」では平成初期・中期・令和7年の約４０年間の街並みの変遷の記録を見比べる企画を考えています。

東町は今後もさらに変化していくと思いますが一つの参考資料としてみていただければと考えています。

こんな写真も準備中です。

≪旧日光小学校≫

≪鐘美館≫

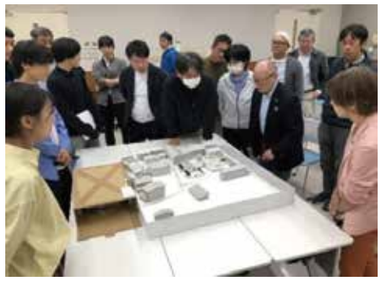
「変わらない街」・「変わる街」
「この場所に住まう」・「住み続ける」
この地に生き続ける街＝「祭の街」

みんなで考える東町のまちなみ

情報交換・交流部会
部会長　竹内　康晃

情報交換・交流部会では令和7年1月30日に開催させていただいた第1回目の「まちなみ懇談会」に続き、令和7年10月14日に、宇都宮大学大学院の授業として実施した「日光門前町の敷地を利用した仮想の設計演習」の地域発表会を開催いたしました。学生さんが考えた設計計画を見ながらの学生さんと地域の皆様との意見交換は、新たな発見を得られる機会となりました。

近頃はインバウンドにより、これまで以上に多くの外国の方々が日光門前の通りを歩かれている姿を目にしています。こういった変化の中にもまちをより良くしていくための課題やヒントが隠されているのではないかと感じ始めています。今後も地域住民の皆さんと率直な意見交換、交流を行っていきながら、東町のまちづくりをより良いものにしていきたいと考えて居りますので、皆様のご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。



「日光門前町の敷地を利用した仮想の設計演習」地域発表会の様子（日光公民館視聴覚室）

小さな実験から始まる景観づくり

社会実験部会
部会長　髙橋　広野

社会実験部会では、東町の景観上の課題を、小さな試みを重ねながら見直す取組を進めています。現在は、日光木材業協同組合様の協力により制作した行灯風の木製「カラーコーンカバー」を７基設置し、通り沿いの駐車場での車止めや一時的なサインとしての活用方法も含めて実証中です。道路拡幅工事以降に増えたカラーコーンの在り方を見直しつつ、アンケートやヒアリングで利用者・観光客・地元の方の声を集め、改良を重ねながら、景観になじみつつ実用的な「まちの道具」として育てていくことを目指しています。

きものつゞれ屋（御幸町）

mekke日光郷土センター（御幸町）

カラーコーンカバー塗装作業の様子

また、ごみ問題への対応として、ごみ箱の導入可能性に関する調査なども進めています。昨年度に整理した課題や今回の社会実験の結果を踏まえ、再度の街歩きによる現状把握も行いながら検証を重ね、来年度以降に向けて、まちの景観をより良く整えるための具体的な提案へとつなげていく予定です。

益子本通り クリスマスマーケットへの視察

令和7年12月に、益子町のまちづくり団体である益子本通り活性化協議会が主催するクリスマスマーケットを視察しました。会場は多くの人が訪れて賑わいがある一方で、ゆったりとした雰囲気がありました。コーヒーショップやハンドメイドショップ等の出店が多く見られました。東町でも同じようなイベントを開催することができれば、認知度の向上や、さらなる活性化を見込めるのではないかと感じました。

益子本通りクリスマスマーケットの様子（益子町）